

産地戦略

実施期間 令和6～7年度

実施主体 滝川市G×技術検証コンソーシアム
 都道府県 北海道
 対象地域 滝川市
 対象品目 水稲、大豆



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

滝川市は水稲を基幹作物とした地域であり、総面積の約5分の1で水稲の作付けを行っている。年間で約36トンのもみ殻が発生しており、処理コストに悩まされているのが現状である。地域の未利用資源となっているもみ殻の有効活用方策を検討し、選択枝のひとつとしてバイオ炭の取組を地域に浸透させる。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R12	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	2,388	▶ 2,560	水稲：2,072ha、大豆：316ha →水稲：2,241ha、大豆：319ha
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	4.1	▶ 40	水稲：2.2ha、大豆：1.9ha →水稲：30ha、大豆：10ha
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	4.1	▶ 40	同上
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	4.1	▶ 40	同上

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	もみ殻バイオ炭の農地施用を行っていない	▶ もみ殻バイオ炭の農地施用	土壌改良、炭素貯留効果
環境	木質バイオ炭の農地施用を行っていない	▶ 木質バイオ炭の農地施用	土壌改良、炭素貯留効果
省力	ブームスプレーヤーによる農薬散布作業	▶ 農薬散布用ドローンを活用した防除	作業時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	もみ殻バイオ炭施用量	0ha	▶ 30ha	
環境	木質バイオ炭施用量	0ha	▶ 10ha	
省力	作業時間の削減	1.13h/ha	▶ 0.4h/ha	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

グリーンな栽培体系導入マニュアルを活用し、市内生産者に対してバイオ炭の取組に係る普及推進及び技術指導を行う。
併せて、バイオ炭の取組に係る情報を継続して収集し、収集した情報を農業者の参加する会議等で広く周知することで取組に対する理解の醸成を図る。

関係者の役割

関係者名	滝川市	JAたきかわ	空知農業改良普及センター 中空知支所	空知土地改良区	生産者
役割	全体総括 情報発信	生産者総括	技術的助言	技術的助言	グリーンな栽培体系 技術の導入